

平成 29 年度

事業所名：グループホーム あやめ(2階)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100246		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホームあやめ (2階)		
所在地	盛岡市神子田町8-27		
自己評価作成日	平成 29年 9月 7日	評価結果市町村受理日	平成29年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&lgvosyoCd=0390100246-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 10 月 4 日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に利用者を見守り・観察しながら思いを汲み取り個人に合わせた支援・対応を心掛けている。特に安全・安心で怪我のない生活を送れるように気を配り、出来ることを尊重しながら楽しく日々過ごして頂けるように取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

二階建て2ユニットで明るくゆとりのある事業所である。周辺は住宅街で商店等も多く、便利な環境である。株式会社が運営主体で他に通所介護事業等も運営しており、これらの事業所との連携も図られ、利用者や家族の信頼、安心感を得ている。地域との交流や協力の獲得に前向きに取り組んでおり、事業所内のコミュニケーションや利用者、家族との連携、連絡も良く取られている。職員は日常のケアサービスを通じて運営理念の実践に努めており、また、内部の研修等による研究、意識の共有にも積極的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

〔評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会〕

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム あやめ(2階)

2 自己評価および外部評価結果

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホーム内に掲示し介護に迷った時の指針となるようにしている。会議で理念を再確認したり本人はどう思っているかを話し合いながら実践につなげるようにしている。	常に利用者に寄り添うことを基本理念として廊下に掲示するとともに、職員会議等の場で必要の都度再確認を行い、意識の共有に努めながら、理念に基づいた実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の会員となり運営推進委員の協力を得ながらホームの行事に参加して頂いたり、地域の行事に声をかけて貰ったりしている。また、子供会の行事や秋祭りの時は地域の方々がホームの前まで足を運んで下さっている。	地域の自治会に一員として参画しており、お祭りなど各種の行事に参加している。また敬老会など事業所の行事にも地域からの参加があり、双方向の交流がみられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事に招待する等して普段の関わり方を見て頂いたり、運営推進協議会の於いて情報提供する等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催している。運営推進会議の中で避難訓練時に懐中電灯の電池確認も合わせて行くと良い、とか火災時は協力体制を頂けるようアパートの大家さんから住民に回覧してもらう等アドバイスを頂きながら改善を図っている。	二ヵ月に一回開催し町内会長や民生委員、地域住民等が出席して意見交換している。火災時の近隣協力などについて提言のあったことを事業所の運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護認定や生活保護受給者の受け入れ・権利擁護の利用者等連絡を取りながら支援している。市町村の集団指導を受けたり日頃の疑問等は問い合わせをしている。	市の担当者からは介護認定のことだけでなく、生活保護、権利擁護など、ケアサービス全般について連絡、指導を得ている。日常の連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については内部研修で理解を深めている。入居者が閉塞感を感じずに生活できるように考えている。	防犯上の理由で玄関には施錠しているが、利用者の外出願望を把握しできるだけ外出するようにしている。ふらつきがある利用者の事故防止のためセンサーマットを使用している。身体拘束をしないという原則を内部研修等で確認し合っており、実践につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について内部研修で理解を深め、職員同士で声を掛けあえる環境を作りながら虐待に至る前に防止できるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	担当者が対応している。成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用している入居者が数名おり、連絡を取り合いながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の疑問点や心配事を聞くようにしており納得したうえで契約できるよう支援している。また、料金改定の際には文書や口頭で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や行事の際に日々の記録に目を通して頂いたり電話や口頭で暮らしぶりを家族に伝え生活についての意見や希望がないか聞くようにしている。	家族の意見、要望は訪問時や電話でいつでも受け入れている。利用者の思いについても七夕の短冊に書かれた願い事等から意向を察しケアサービスに生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送り時のみではなく普段から状況を聞くようにし職員が自らの思いや考えを表せるようにしている。	定例の会議、打ち合わせや日常の仕事を通じて職員の意見、要望を把握している。各利用者の留意事項を記録し個々の書類引き出しに整理しておくことなどの提案があり、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各委員会に職員が所属するとともに、利用者の担当を持つことで役割や責任を持って働けるようにしている。給与基準や処遇改善計画書は職員間で回覧している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット会議の際に内部研修を開催している。また、経験や技術にあった外部研修への参加を勧めている。資格取得についても積極的にバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に所属し、研修会に参加したり同系列のグループホームと意見交換する等、介護に活かせるように取り組んでいる。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との会話の中から困りごとや不安ごと、気になっている事を聞き出すように努め、出来る限り見学に来ていただきホームの様子を感じ取って頂いている。本人にとって必要なサービスが何かを確認しながらサービスにつなげる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が面会に来られた際に普段の様子を伝え、安心して頂けるように説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を伺った上で本人や家族にとって今必要なサービスが何かを一緒に考えている。場合によっては他サービスの情報を提供するなどしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることはして頂きながら職員と一緒に楽しみながら生活できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出支援の他、不安な時は電話で話をし、いただく等家族の力を大切にしている。行事と一緒に参加して頂く等して家族と過ごす時間も大切に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や家族・親戚の面会を歓迎している。入居前からのデイサービスに継続して通えるように支援している。	家族との連絡体制ができており、随時、来訪がある。かつての同僚等の訪問もある。以前利用していた系列のデイサービスに本人の希望で顔を出したり、馴染みのある町を散歩するなど、従来の関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	時折席替えをし入居者同士の関係を深めている。また、一緒にお手伝いをしてもらう事で会話しながら楽しく過ごせるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も面会に行ったり家族に様子を伺う等している。また、転居先には情報を十分に伝えホームでの生活をなるべく継続できるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が希望を口にしたときは出来る範囲で気持ちに沿えるように努めている。	利用者に寄り添い、表情、行動などから希望や意向を感じ取るようにしている。年々、思いを表すことが難しくなっているが、家族と情報交換したり、スタッフで相談等をして方向を見出すようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前までの生活状況や家族との関わりを把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が何に興味を示し、どのようにすれば穏やかに過ごせるか考えながら現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が何を望んでいるか・今何を求めているかを考え支援方法を検討している。毎月の会議の中で現状を確認し合い、今の状況に沿った介護計画を作成するようにしている。	担当制で利用者をみており、毎月の職員会議で話し合い、利用者の状態を基本に家族の意見も参考にし、ケアマネージャーが中心となり事業所のスタッフで検討して三ヵ月に一回、ケアプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し職員間で情報共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員同士で様々なアイデアを出し合い、一人一人に合わせ趣味・好み等を把握しながら柔軟に対応できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の子供会や祭りの際に声を掛けて頂きホームの前に出て交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する主治医への通院援助をしている。	かかりつけ医の受診もあるが市内の協力医による訪問診療を受診している方が多い。利用者や家族の希望により受診を支援している。家族には本人の状況を情報提供している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を記録し通院時や相談時の大切な情報源としている。職場内には看護師が居ないため主治医や協力医の看護師に電話で相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院したときはホームでの生活状況やその後の経過などを連絡し合い早期退院に向けて情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の意向確認の他、状態の変化があるごとに家族・主治医と相談している。	看取り方針を策定しているがこれまでの事例はない。重度化した場合の対応などを入居時に家族と話し合い、その後も随時相談している。所内勉強会で看取りについて意識の共有に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開き手順や対応の仕方について確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練には運営推進員の方にも参加して頂いている。水害時のマニュアルも市やグループホーム協会の情報を参考にしながら作成した。今後マニュアルを基に水害時の避難訓練も実施していきたい。火災の際の近隣住民の協力体制についてはアパートの大家さんから回覧にて周知して頂いた。	昼間、夜間の避難訓練を行っており、水害時の対応マニュアルも作成している。災害時には運営推進会議のメンバーである地域の役員との協力体制を築いており、近隣住民の協力についても地域に回覧し、その周知に努めている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、その人が分かる言葉で声掛けするようにしている。特に排泄時や入浴時などは声掛けに留意している。	利用者の人格の尊重という基本理念に基づいたケアを実施しており、排泄について特に留意している。プライバシーに配慮しながら一人ひとりに寄り添い、声掛けも一つ一つの言葉を工夫しながら丁寧に行い、本人の立場に立ったサービスの提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望になるべく沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員間で情報共有し一人一人の希望・思いに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来る様季節に合わせた対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくおいしく食べられるよう調理に参加して頂いたり後片付けを一緒にする等している。	食事前には必ず嚥下体操を行い、テレビを消して職員と共に美味しく食べている。食事の準備、片づけに利用者も一部、参加している。食事の雰囲気も和やかであり、食欲も進んでいる。お正月の合同食事会には全員で出掛け楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態を把握し、摂取量・水分量に気をつけ支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを施行しており、義歯のある方は毎日洗浄液に浸けて清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄が出来る様支援している。チェック表を活用しながら声掛け・誘導をしている。	排泄チェック表と其々のしぐさ等で、トイレ誘導を行い、現在17名中11人の方が布パンツとパットで過ごしている。日中は布パンツの方も何名かは、夜間リハビリパンツにかえて休まれている。便秘予防の為にホールで体操をしたり水分を十分摂取するように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動・水分・食事に気を付け自然排便が出来るように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわらずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やペースに合わせて入浴できるように努めている。	入浴を嫌う利用者もいるので定期的な入浴を強制せず、それぞれの意向による入浴、部分浴を支援している。週に2、3回は入浴できるようにしている。入浴時歌を歌ったり、時に本音トークの場となる事もあり、リラックスタイムとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で自由に休息を取って頂いている。夜間眠れない時は話し相手をしたり居室内の環境も配慮しながら安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を職員全員が把握し服薬支援をしている。記録や申し送りを活用し、薬の変更があった際はいつも以上に観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を把握したうえで体調に合わせお手伝いをして頂いている。その日の状況に応じてレクを行い気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候にあわせ散歩や外気浴を行っている。	希望者には事業所周辺の散歩、外食や地域行事の見物、事業所としての行事企画等により、随時、外出支援を行っているが、冬場には寒いと言って出たがらない方も多い。また、二階利用者の外出が少ない。	随時、利用者の状態に即した外出支援に努めているが、商店街が近い等の賑やかな周辺環境を生かし、冬場などの外出支援をさらに工夫することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の預かりはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話等は本人の希望を聞き対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不快にならないよう衛生面に気を付け居心地の良い空間作りを心掛けている。	廊下や食堂ホールなどの共用空間は明るくゆったりとしたスペースとなっており、また、手作りの飾り物が掛けてあるなど、全体的に清潔で和やかな雰囲気を醸し出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは仲の良い入居者同士会話を楽しんでいる。また、レクでは歌やゲームを行いコミュニケーションを図っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が作成した作品や好みの物を飾ったりしてリラックスできるようにしている。	居室には使い慣れたソファや部屋によっては大事な位牌等が置かれてあり、利用者の思いが尊重されている。また、清潔な環境となっており、居心地の良いその人らしい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドアには名前を貼ったりトイレには目印を付けたりして行きたい場所へ行ける様に工夫している。		